



学校だより

11月号
横浜市立桜台小学校
令和5年10月31日発行



HPはこちらから

みんなの活躍で盛り上がった運動会

教務主任 鈿持 裕司

10月28日(土)天候にも恵まれ、運動会を実施することができました。運動会開催におきましては、皆様方の多岐にわたってのご理解ご協力に感謝申し上げます。子ども一人ひとりが運動会を通じた取り組みの経験を糧に、成長していけるよう見守っていきたいと思いますので、これからもよろしく願いいたします。なお、今回は4年ぶりに人数制限なしの参観体制となり、コロナ前の姿に戻った雰囲気にも運動会の独特の空気感も戻ってきたような感じがしました。

演技を始める前の静かなひと時、徒競走のスタート音が鳴る前の一瞬の間、子どもたちの真剣な眼差しから、緊張感がうかがえました。このような一つひとつの場面が、運動会で子どもを成長させるのだと思います。

運動会当日にたどり着くまでに、子どもたちのがんばりが随所で見られました。

高学年のソーラン節の練習では、こんな一コマがありました。ウェーブの仕方がなかなかつかめず、苦勞していた子どもたち。何回か繰り返していくうちに上手にできるようになりました。そのとき、自然と子どもたちから拍手が湧きあがりました。自分たちに向けたものです。また、たてわりグループごとに教え合いをする場面があり、そこでは6年生から5年生に優しく教えていたり、一緒に踊ってみたりと共に演技を作り上げていく姿がありました。他者を認め、自分も高めていく。そういった学び合いのよさを子どもたち自身も感じ、今後の学習に繋げていきたいところです。運動会が終わったときも、子どもたちどうして喜び合ったり認め合ったりする姿が見られました。

他にもマスコットを考えた子、全校ダンスの振り付けを考えた子、児童席で低学年の子に優しく話しかけている高学年の子など運動会の表舞台でないところでも活躍している子どもが多く存在します。徒競走で速く走れたり、ダンスを上手に踊れたりすることも、もちろん立派なことですが、お子さんの活躍をぜひご家庭でも褒めて、次へのステップに向けた声かけをしていただければと思います。



運動会の取り組みのように、実際に子どもどうしが触れ合いながら切磋琢磨し、汗を流しながら、一つのものを協働して創り上げる経験はとても貴重なものです。また、その後の学習効果を上げることにもつながると言われています。

自分が褒められたり友達のよさを見つけたりすること。成功させるためにみんなで意見を出し合い、まとめること。このように実際に友達と関わりながら学習していく活動は、温かい心や自己肯定感を育むことができます。豊かな人間関係を育成し、多くの活躍の舞台を作れるような学習環境を整え、桜台の子どもたちの笑顔をたくさん作ってあげたいと考えています。